

# 浜松市天竜区佐久間町および浜名区引佐町久留女木地区における地域資源を活かした「関係人口」創出のための比較研究

静岡文化芸術大学 文化政策学部 文化政策学科 船戸ゼミ  
指導教員：教授 船戸修一  
参加学生：植田勝也・富田菜々美・森田瑞希（4年生）

## 1 要約

現在、中山間地域の多くは人口減少や少子化・高齢化による担い手不足という問題を抱えている。新たな担い手として期待されているのは、集落から転出した子ども（以下「他出子」）である。他出子は、出身集落に居住していなくても実家と継続的につながりをもっている。他の集落住民とのかかわりをもつことができると、他出子は集落を支える担い手になる可能性がある。本研究では、浜松市天竜区佐久間町下平地区の他出子本人と浜名区引佐町久留女木地区に居住する住民（世帯主）を対象に質問紙調査を実施した。質問紙調査によって、他出子の帰省実態や共同作業・祭礼への参加状況について明らかにした。両地区の比較を行い、他出子を地元の住民活動に巻き込んだ地域づくりの可能性を提案する。

## 2 研究の目的

昨今、中山間地域では人口減少（＝人の空洞化）や高齢化が進展した集落がみられる。人の空洞化が進行すると、耕作放棄地が増える（＝土地の空洞化）。さらには集落機能を維持することが困難になる（＝むらの空洞化）（小田切2009）。このような3つの空洞化が進行した集落は、地域の担い手不足からしばしば「限界集落」と言われている。限界集落とは「65歳以上の高齢者が集落人口の50%を超え、独居老人世帯が増加し、このため集落の共同活動の機能が低下し、社会的共同生活維持が困難な状態にある集落」（大野2003:22-23）と定義されている。限界集落となると、集落はいずれ消滅してしまうという社会解体的予言が当然視されるようになった（山下2012:31-32）。集落人口の半数以上を65歳以上が占めると、その事実が集落消滅につながるものとして理解されるようになった。しかし65歳以上人口が半数を超えても、存続している集落はある。このことは、65歳以上人口が集落人口の半数以上になることが必ずしも集落消滅につながらないことを示唆している。

さらに農村社会学者の徳野貞雄は、集落の居住者だけでなく、他出子の存在に着目すべきだと主張する（徳野2014）。徳野は、福岡県八女市立花町白木地区にて「T型集落点検」という手法を用いて、他出子を把握した。この手法により、他出子の8割は車で1時間以

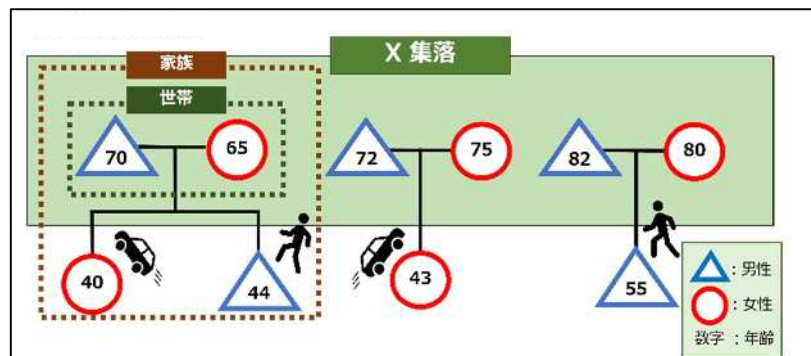


図1 X集落の「世帯」と「家族」

内の場所に居住していること、他出子が定期的に通い実家の生活を手伝っていることが明らかとなった。こうした定期的に通っている他出子を実質的な住民とみなすことができる。そのため、「世帯」ではなく、「家族」で捉えることが必要である。

近年、中山間地域のように担い手不足といった課題を抱える地域において「関係人口」が注目されている。しかし関係人口は、地域とのかかわり方において様々な層に分類される。関係人口の中でも他出子は、その地域出身者という地縁をもち、なおかつ地域に家族が居住している血縁ももっている。そのため、不特定多数を対象とした関係人口づくりではなく、地域と強い関係をもちかかわりをもちやすい他出子に着目する（図1）。

### 3 研究の内容

本研究では、浜松市の中山間地域である天竜区佐久間町下平と浜名区引佐町久留女木地区を比較する。下平地区は、2024年9月4日時点で、人口35人、世帯数14戸である。一方、久留女木地区では自治会名簿によると、2023年7月時点で人口160人、世帯数58戸となっている。久留女木地区は、西久留女木と東久留女木という地域で構成される。

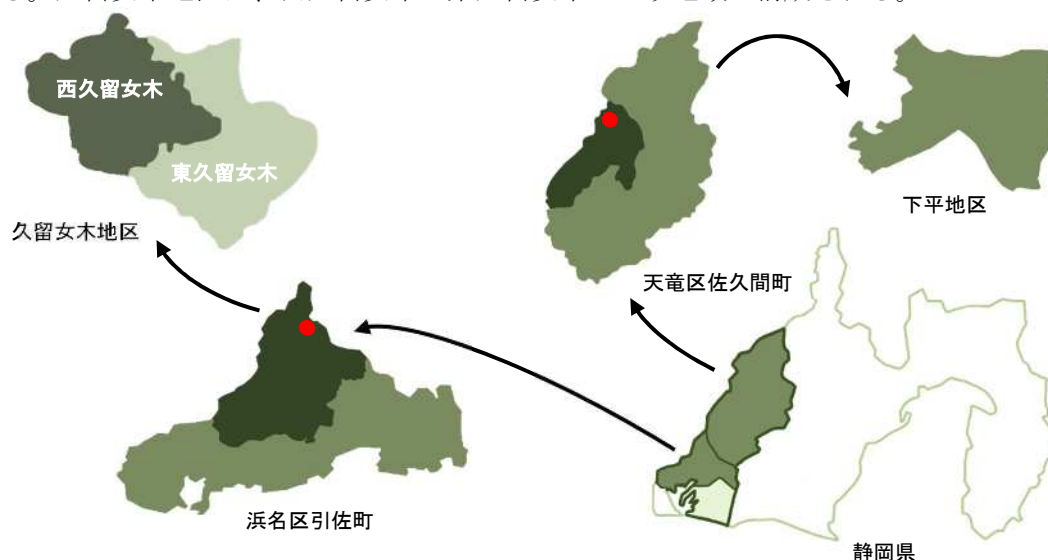


図2 浜松市における久留女木地区の位置

### 4 研究の成果

下平地区では、他出子への質問紙調査を実施した。ただし、他出子へ直接質問紙を配布することができないため、下平地区に居住する世帯主に依頼し配布した。調査対象者は、14世帯中12世帯の地区外に居住する13歳以上の子ども24人である。質問事項は、帰省頻度・実家とのかかわり・共同作業や祭礼への参加状況などである。質問紙の回収状況は、2024年12月5日時点で、17人から回答があり、うち有効回答は15人である。加えて、8月に行われる盆道づくり（一斉草刈り）や祭礼への参与観察を実施した。

久留女木地区では、他出子の把握が困難なため、久留女木地区に居住する世帯主への質問紙調査を実施した。他出子の有無・人数・居住地・帰省頻度・実家とのかかわりなどについて質問した。居住地については、正確な位置を把握するために、浜松市の旧区で質問している。質問紙の回収状況は、配布したのが57戸（1戸は転出しているため58戸ではない）に対し、回収数が50戸であった。加えて、毎月の自治会役員の定例会、共同作業や行事・祭礼への参与観察を実施した。

#### 4-1 下平地区と久留女木地区における他出子の年齢と居住地

下平地区の他出子の年齢別人口構成は、20代0人、30代4人、40代4人、50代5人、60代2

人となっている。

久留女木地区の他出子の年齢別人口構成は、20代8人、30代10人、40代15人、50代9人、60代0人となっている。

下平地区の他出子の居住地は、「親が居住する地区を含む浜松市の区」0人、「親が居住する地区を含まない浜松市の区」2人、「浜松市以外の静岡県西部」2人、「静岡県西部以外の静岡県」1人、「愛知県東三河地域」0人、「東三河地域以外の愛知県」7人、「その他」2人、「不明」1人であった（「浜松市以外の静岡県西部」とは、磐田市・御前崎市・掛川市・菊川市・湖西市・袋井市・森町を、「愛知県東三河」とは、蒲郡市・設楽町・新城市・田原市・東栄町・豊川市・豊橋市・豊根村を指す）。

久留女木地区他出子の居住地は、「親が居住する地区を含む浜松市の区」6人、「親が居住する地区を含まない浜松市の区」15人、「浜松市以外の静岡県西部」6人、「静岡県西部以外の静岡県」1人、「愛知県東三河地域」1人、「東三河地域以外の愛知県」2人、「その他」9人、「不明」1人であった。

このように、下平地区の他出子の約3割、久留女木地区の他出子の約7割が車で2時間以内の地域（静岡県西部・愛知県東三河）に「近居」している（図3）。

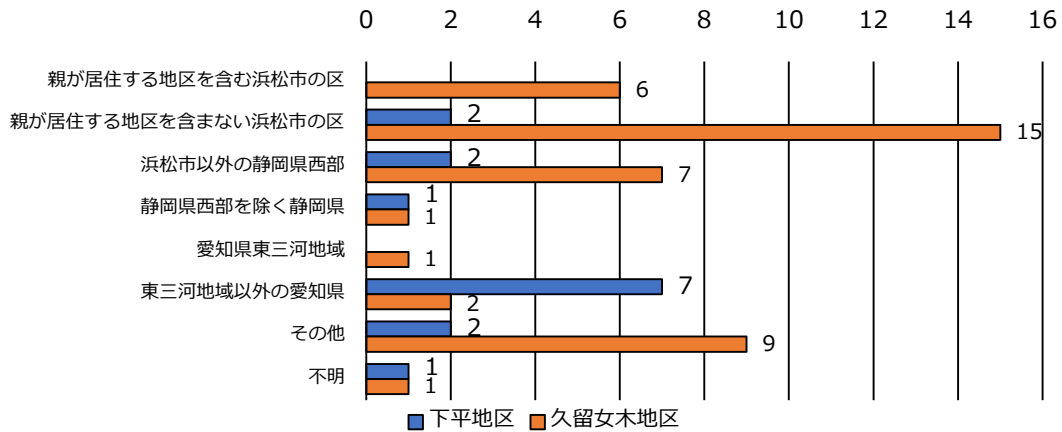


図3 下平地区と久留女木地区の居住地別他出子人口

#### 4-2 下平地区の他出子における帰省実態と共同作業・祭礼への参加状況

下平地区の他出子は、回答を得られた15人中14人が下平地区へ「帰省することがある」と回答し、1人が「帰省しない」と回答している。

同地区の共同作業には、盆道づくりや祭礼前の神社の清掃（毎年10月）がある。現在、これらの共同作業へ「参加している」と回答した人はいなかった。共同作業への参加意思を聞いた項目では「参加したい」と回答したのが5人、「参加したくない」と回答したのが10人であった（図4）。また、祭礼へ「参加している」と回答したのは2人であった。祭

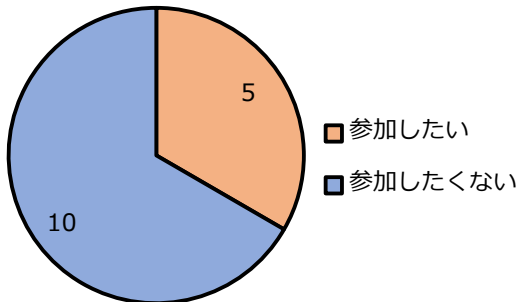


図4 共同作業への参加意思

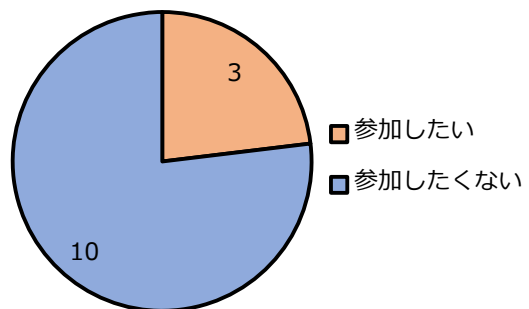


図5 祭礼への参加意思

礼へ「参加していない」と回答した13人中に、祭礼への参加意思を聞いた項目では「参加したい」と回答したのが3人、「参加したくない」と回答したのは10人であった（図5）。

#### 4-3 下平地区と久留女木地区における共同作業・祭礼

下平地区の盆道づくりは、住民によって草刈りや倒木の除去、側溝の土砂撤去などの生活道路の管理作業である。神社の清掃については、盆道づくりと同時にお堂の拭き掃除などを行う。秋の祭礼では、前日に氏子が集まり準備を行う。祭礼当日は住民が集まるが、神事を行うのみである。

久留女木地区における共同作業は、旧久留女木小学校体育館周辺の草刈りを住民が行うものである。祭礼は、西久留女木と東久留女木に分かれる。神事には氏子が参加することは両地域で共通する。神事後、西久留女木ではくじ引きを、東久留女木では餅なげを実施し、氏子以外の家族や他出子が参加しにぎわう。

### 5 課題提出者・地域への提言

本研究では、地域と強い関係をもつ他出子という関係人口に着目し、調査を行った。下平地区では、他出子24人中15人から回答を得ることができ、地区とのかかわりについての実態が明らかになった。久留女木地区の他出子の約7割は、地区から車で2時間以内の地域に「近居」しているが、下平地区の他出子で「近居」しているのは約3割にとどまり、約7割が遠方に居住している。しかし、下平地区の他出子は、遠方に居住しているにも関わらず、15人中14人が実家へ帰省している。質問紙調査の結果から、地区の共同作業や祭礼へ参加している他出子はごく一部に留まっている。

一方、久留女木地区の祭礼では、西久留女木と東久留女木で内容は異なるものの、氏子だけでなく家族や帰省した他出子が祭礼に参加し、楽しむことができる「余興」が用意されている。参与観察から、くじ引きや餅なげを楽しみに来ている他出子がいることが分かった。

このことから、下平地区においても共同作業や祭礼など住民が集まる場において、住民だけでなく他出子も楽しむことができる仕掛けが必要と考える。まずは、他出子が共同作業や祭礼に参加し、家族以外の住民と接することで下平地区との関係を構築することができる。そのうえで、他出子を巻き込んだ地域づくりが可能となり、担い手不足の課題を解決する可能性を見出すことができるのではないかと。

#### 【注】

1) T型集落点検とは、住民に家族の年齢・続柄・職業を黒のマジックで、他出子の居住場所・職業・年齢・往来頻度・Uターンの意思など赤のマジックで書き込む。そして家と集落の課題をあぶり出し、最後に課題へのアクションプランを作成する手法である（徳野2014）。

#### 【参考文献】

大野晃(2005)『山村環境社会学序説—現代山村の限界集落化と流域共同管理—』農山漁村文化協会。

小田切徳美(2009)『農山村再生—「限界集落問題」を超えて—』岩波書店。

徳野貞雄(2014)「限界集落論から集落変容論へ」徳野貞雄・柏尾珠紀『T型集落点検とライフストーリーでみえる家族・集落・女性の底力—限界集落論を超えて—』農山漁村文化協会：14-55。

山下祐介(2012)『限界集落の真実—過疎の村は消えるか?—』筑摩書房。

### 6 課題提出者・地域からの評価

今回の調査は、これまでの調査地区である久留女木地区とは地理的特徴や文化が異なる、佐久間町下平地区で実施された。調査結果からは、他出子がより地域に関わるためには、他出子が地域に関わりやすい仕組み・体制が必要であることが分かった。今後の地域住民と他出子との協働による地域づくりに期待したい。【浜松市 市民協働・地域政策課 鈴木芙実】